

芸術(美術・工芸)

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びの視点からの「鑑賞」の学習過程の実践～

(2) 研究のねらい

新学習指導要領では、「A表現」と「B鑑賞」の両領域を関係付けて総合的に働かせて学習を深めること、鑑賞の指導については、十分な授業時数を配当し資質・能力の定着が図られるようにするものとされ、「B鑑賞」の学習過程の改善が急務となった。そこでこれまで取り組んできた主体的・対話的で深い学びの視点による学習過程の改善についての先行研究を基に、鑑賞と表現の学習活動との関連を意識し、生徒が造形的な見方・考え方を働かせて能動的に鑑賞の学習活動に取り組めるよう、各校で実践題材を精査し授業改善を図ることとした。また、各校実態に合わせ、「B鑑賞」を適切に年間指導計画に配当し、資質・能力を効果的に育成する教育過程に改善するために、複数年での改善計画を立て実施していくこととした。

2 実践事例

(1) 題材指導計画

ア 科目名：美術 I（1 学年）

イ 題材名：「うねり」を生み出す～ミクストメディアを使った彫塑作品～

ウ 題材の目標：

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
- ・意図に応じてバルサ材や、石粉粘土、芯材などの材料や彫刻刀や木工やすりなどの用具の特性を生かすとともに、木材と粘土によるミクストメディアでの彫塑の表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。（「A表現」(1)イ）

「思考力・判断力・表現力等」

- ・モチーフのぼしを持つ動勢を感じ取り、考えたことなどから、主題を生成するとともに、彫塑の表現形式の特性を生かし、モチーフの形体や色彩、空間などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練る。（「A表現」(1)ア）
- ・彫塑作品や生徒の作品から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」(1)ア(ア)）

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、写実的な立体表現に関心を持ち、彫塑やミクストメディアの表現について理解すると共に、それらを生かした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、彫塑作品や生徒の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知色や形、材料などの性質や働き、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技意図に応じてバルサ材や、石粉粘土、芯材などの材料や彫刻刀や木工やすりなどの用具の特</p>	<p>発モチーフのぼしを持つ動勢を感じ取り、考えたことなどから主題を生成し、彫塑の表現形式の特性を生かし、モチーフの形体や色彩、空間などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>態表 写実的な立体表現に関心を持ち、彫塑やミクストメディアの表現について理解すると共に、それらを生かした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 彫塑作品や生徒の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、</p>

性を生かしている。また、彫塑とミクストメディアの表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	鑑彫塑作品や生徒の作品から造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	作者の心情や意図と表現の工夫などについて考え、彫塑の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------

オ 題材の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	作品の鑑賞（1時間） ◆彫塑を中心とした作品鑑賞をする。 ・彫塑作品の見方や感じ方を深めるために、ICTを活用し、注目する造形的な要素を焦点化して彫塑作品などを鑑賞し、感じたことや考えたことを、ワークシートにまとめ、グループで共有を行う。 ・題材の目標や作業の手順などを確認し、制作の見通しを持つ。 ・モチーフの にぼし を選び、アイデアスケッチをする。	●知 ―― ↓	●鑑 ―― ↓	●鑑態 ―― ↓	活動の様子、発言の内容、ワークシート 【指導上のポイント】 この鑑賞の創造活動は、「創造的に表す技能や発想や構想に関する学習を深めるための活動」である。 単に表現のために表面的に作品を鑑賞するのではなく、「作者は、どのような意図を持って表現しているのか」という視点を持てるようにする。そのために、注目する造形的な視点を「動勢を捉えること」に絞って鑑賞し、彫塑作品への見方や感じ方を深める。作品やモチーフの形を造形的な視点でとらえ、制作の意図や工夫について考え発想や構想の活動に生かすことができるよう発問やワークシートを工夫する。 【指導上のポイント】 対話的な学習活動の視点を基に、作品の第一印象などを、ICTを活用してリアルタイムで共有するなどして意見を述べやすい環境を整える。個人の意見をまとめる時間をとり、考えを持たせてから、グループで意見共有を行い、考えを広げる。また、効果的な言語活動にするために、グループワークでの、机の向きや机上の状態などの環境や説明の仕方等の例を示すことも大切である。 【知の評価のポイント】 鑑賞を通して、焦点化した造形の要素の働きを理解できているかは、意図を持って動勢のあるモチーフを選んでいるかを実現状況として見取り評価する。 【鑑の評価のポイント】 ワークシートの記述や発言の内容から、見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。 【鑑態の評価のポイント】 生徒が動勢を捉えるために造形の要素に着目して、主体的に見方・感じ方を深めようとする意欲や態度を高められるように、作品や関連の写真資料の提示の順番など鑑賞活動の内容を工夫し、その姿を活動の様子や発言の内容、ワークシートから見取り評価する。
2	2 3	発想や構想（2時間） ◆モチーフを観察し、動勢を捉え感じ取ったことなどから主題を生成する。 ・アイデアスケッチを通して、生成した主題を基に、スケッチを行い、ミクストメディアを用いる箇所を検討する。	●知 ―― ↓	●発 ―― ↓	●鑑態 ―― ↓	活動の様子、ワークシート、アイデアスケッチ 【指導上のポイント】 生徒が主体的に主題を生成しやすくするため、題材の終了後に自身の考えなど変容を読み取ることができるよう、ワークシートの内容や構成を工夫する。 【指導上のポイント】 ミクストメディアを用いる箇所は、モチーフの形の変化が複雑で、うねりやねじれが生じて動勢を

			<p>――○表</p> <p>――○表態</p>	<p>表現するために重要な箇所である。粘り強く造形を追求するために、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高い粘土の可塑性を生かし動勢の表現をすることも意識させる。</p> <p>【指導上のポイント】 アイデアスケッチでモチーフの形をとらえきれない生徒には、粘土で大まかにとらえる作業などの手立ても工夫する。</p> <p>【発】の評価のポイント 前時に着目した動勢を捉える視点で、モチーフを観察し、造形的な美しさや、木彫やミクストメディアの技法の特性を生かして、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか、アイデアスケッチや活動の様子から評価する。</p>
3	4 5 12	<p>制作（8時間）</p> <p>◆発想や構想したことを基に、創造的に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチを基にバルサ材の特性やミクストメディアの技法を生かして、彫塑の表現方法を工夫し、主題を追求して作品を完成させる。 制作の途中で中間鑑賞を行う。主題に迫ることができているかという視点で、作品を相互鑑賞し、客観的な視点やアドバイスを参考にして、制作に生かす。 	<p>●技</p> <p>――↓</p> <p>――○技</p>	<p>●表態</p> <p>――↓</p> <p>――○表態</p> <p>活動の様子、制作途中の作品、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】 見通しを持って制作を行うことができるように、導入時に、バルサ材や石粉粘土の特性や木目による彫り方の違い、材料による技法の違いや、用具類の特徴や使い方や手順を丁寧に説明する。また事故防止の観点からも用具の配置等の環境整備を行う。</p> <p>【指導上のポイント】 制作の途中で作品の相互鑑賞を行い、主題が追求できているか確認をさせる。</p> <p>【技】の評価のポイント 作品制作での技術の有無ではなく、モデリングとカービングの技法の違いを理解し、制作の見通しを持って手順を考え、意図に応じて道具や材料の特徴を生かして表現方法を工夫して主題を追求して創造的に表現しているか、制作途中の作品やワークシート、活動の様子から見取る。</p> <p>【態】の評価のポイント 生徒が主体的に制作に取り組み、造形的な視点を意識しながらより良い表現を目指して試行錯誤している姿や、技能を身に付けようとする意欲を発揮している姿をワークシートや毎時間の振り返り、記録した活動の様子から見取る。</p>
4	13	<p>鑑賞（2時間）</p> <p>◆完成したお互いの作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことなどから根拠を持って批評し合う。</p>	<p>●知</p> <p>――↓</p> <p>●鑑</p> <p>――↓</p> <p>●鑑態</p> <p>――↓</p> <p>――○鑑態</p>	<p>活動の様子、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】 題材を通して造形的な見方・考え方を働かせ、他者の作品からだけではなく、彫刻作品や身の周りのもののよさや美しさ、最初に着目した動勢をどのような意図を持って表現しようとしているか考え、見方や感じ方を深められるよう鑑賞の活動やワークシートを工夫する。</p> <p>【指導上のポイント】 本題材で着目した動勢は、次の題材の表現でも活用する造形的な視点になる事を示しておく。</p>
		<p>授業外：題材の終了後</p>	<p>○知</p> <p>○技</p> <p>○発</p> <p>○鑑</p>	<p>ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、制作経過の写真、活動の様子の記録</p> <p>【技】の評価のポイント 技能は、制作が進む中で少しずつ作品に形となって現れるものであるため、完成作品とともに制作途中の作品から、創造的に表す技術の高まりを讀</p>

				<p>み取る。制作途中の作品に関しては、毎授業の振り返りとしてGoogle Classroomに提出された制作経過の写真を参考に行う。</p> <p>【鑑の評価のポイント】 発想や構想は、制作が進む中で更に深まることが多いので制作途中の作品や完成作品からも、形体や色彩、動きなどの造形要素の働きについて考えが深まり、主題や表現の意図など発想や構想が変化していく過程や高まりをワークシート、アイデアスケッチから読み取り評価する。</p> <p>【鑑の評価のポイント】 生徒自身がミクストメディアの彫塑制作の表現の経験を生かしながら他者の作品を鑑賞し、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて表現の創造活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深めているかどうかをワークシートで見取る。</p> <p>【知の評価のポイント】 本題材では、共通事項の造形的な視点から主題を生成することから、〔共通事項〕の内容を理解しているかモチーフ選びの意図を中心に、完成作品やアイデアスケッチ等から実現状況を見取って評価する。</p>
--	--	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

カ 授業実践例 (1時間目/12時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>本時のねらい 作品鑑賞やグループ活動を通じて、彫塑作品の造形要素の一つである動勢に注目し、見方や感じ方を深め、創造的に表す技能や発想や構想に関する学習を深めるための鑑賞の創造活動に取り組む。</p> <p>学習活動 導入 本時の学習の流れと、目標を確認する。彫塑作品を中心とした鑑賞をする。彫塑や絵画作品から動勢を捉えるために「うねり」を意識する。</p> <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞作品から感じ取ったことや、想像したことについて個人の意見をまとめる。彫塑作品や絵画、生き物の写真などから動勢を感じるポイントが、どのように表現につながるかを考えるためにワークシートに取り組む。 グループワークでは、自分と他の生徒の意見を比較して共通点等を見出して自分の考えを持ち、新しい見方や視点に気付き自分の考えを広げる言語活動をする。 モチーフは、にぼしの動勢に注目して選ぶ。 主題を生成するために、造形的な視点を働かせて、様々な角度かモチーフを観察し、アイデアスケッチをして、モチーフの良さや美しさを感じ取る。また、ワークシートの記述を基に生成する。 モチーフの片付けは、壊れやすいので扱いに注意して保管する。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回以降の流れを確認して、本時の活動内容、授業で気付いたこと・感じたことについて振り返りをする。 	<p>【鑑】思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 発言の内容 ワークシート <p>【鑑態】主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の様子 <p>【鑑】思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択したモチーフ <p>【鑑態】主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返り

研究実施校：神奈川県立横浜南陵高等学校(全日制)
 実施日：令和4年11月17日(木)
 授業担当者：井關 麻恵 教諭

学習過程の工夫・改善のポイント、生徒の様子

本研究は、鑑賞の創造活動を工夫し、新設された〔共通事項〕に示された知識を生徒に実感的に理解させることが、主体的な鑑賞の活動の取組につながると仮説を立て学習過程の実践を行った。

また、その鑑賞の創造活動を生かして表現の創造活動に主体的に取り組めるよう題材の指導と評価の計画の改善も行った。さらに、研究授業では、生徒の学習環境の整備をICTの活用も行い以下の視点で授業改善に取り組んだ。

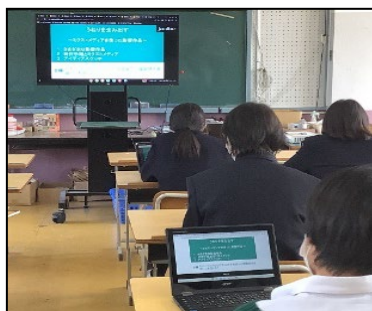


図1 目標確認の様子

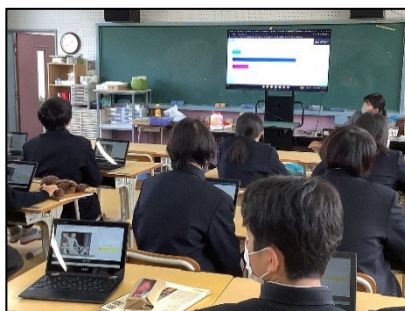


図2 リアルタイム共有の様子



図3 マークをつけている様子

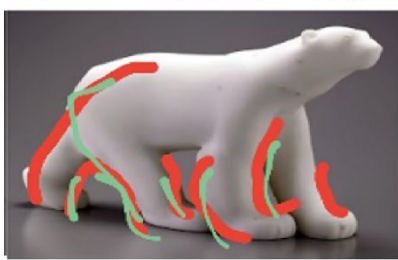
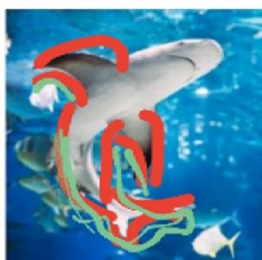

・主体的な鑑賞の創造活動にするための取組

本時に何をするか、目標は何かを明確にするためスライド画面を共有し生徒と確認をした(図1)。鑑賞では、感じたことや考えたことをまとめる個人の活動と、一斉に鑑賞し意見等を共有する活動それぞれを充実させるために、教室内の大型モニターで鑑賞する場面と、1人1台端末を使用し集中して鑑賞する場面と使い分ける等、活動にメリハリをつけた。研究授業では、生徒端末と共有しているGoogle スライドを教員主導で次のスライドに送ること等のコントロールできるGoogle スライド用のアドオン機能の「Pear Deck」を活用した。結果は、机上には生徒端末と教科書のみとなることも併せて、生徒が作品鑑賞に集中する学習環境を整備することができた。この機能は、アプリケーションを切り替えずに簡易的な質問への回答やリアルタイムでの回答の全体共有が可能になり、アイスブレイクに活用した(図2)。

・造形的な視点を持つことを意識させる学習活動の工夫

「うねり」ポイントを探そう！

自分が感じた「うねり」ポイントは **赤**、友達を感じた「うねり」ポイントは **緑** でなぞってみよう！

①

上の吹き出しにはなぞった部分に感じた「うねり」はどんなうねりなのかを書いてみよう！
 (例：ゆるいうねり、ぐっと大きく曲がっているうねり…など)
 下の四角には感じたうねりがどのような動きや表情を生み出しているかを書いてみよう！
 (例：のたのたゆっくりした足取りの動き…など)

②

ゆるい曲がり方

ゆるい曲がり方

すどい曲がり方

な動き

な動き

③

狩りをしているような動き

な動き

【生徒の記入内容一例】

- ① 『うねりを感じるポイントを探しなぞってみよう』…しっぽや足部分の曲線をマークしている
 - ② 『そのうねりはどんな様子ですか？』…「すどい曲がり方」
 - ③ 『そのうねりはどんな動きを感じさせますか？』…「狩りをしているような動き」
- ※他の生徒の回答…「警戒しながら狙っている」「はやくてしずか」など

図4 ワークシートの記述

対象の動勢を捉えることができるようになるために、彫塑作品や生き物の写真などからうねりを感じる造形のポイントを確認させて、それがどのような動勢の表現につながるかを考えさせるために、ワークシートに取り組みさせた。加筆や修正が容易にできるコンピューターのよさを生かして、描画が手軽にできるアプリケーション(Chrome描画キャンバス)を活用し、配信されたワークシートに色付き描線でマークや記述をさせた。造形の要素に意識をさせ、造形の要素の特徴に注目し、造形の要素が感情にもたらす効果を意識するなど段階を踏んで理解していくためにワークシートの設問を工夫した(図4)。

- ・対話を通して、作品の表現意図や思いについて考えを広げ、深める活動の取組

グループごとにマークを付けたポイント、感じた動勢を班ごとに意見の共有をするために、端末画像を自分の意見を述べる際の補助的な資料として利用した(図5)。全体の意見を集約し、彫塑作品の表現には動きが重要な造形の要素の一つであることを確認し、その視点を基に主題の生成や、表現の意図について考えていくことを共有した。スライド画面では意識することが難しい作品の奥行などに注意することを他の角度から撮影した写真で確認させる予定だったが、生徒の状況から判断し、次回以降の授業で行うことにした。

- ・制作の見通しを持つ活動

題材の制作手順をスライド画面で確認する(図6)。

- ・主題を生成しやすくし理解を確認する為の取組

モチーフの動勢に注目し、自分をもっとも動勢を感じるにぼしを探すよう指示し、主題を生成させる。動きへの意識を持たせたかを選んだモチーフの動勢などから判断し評価する(図7)。



図5 共有の様子

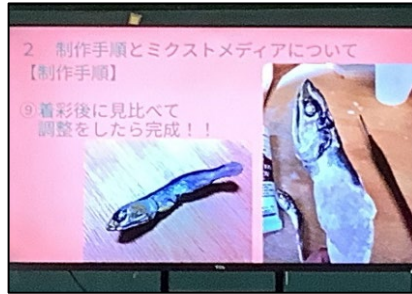


図6 制作手順を確認する



図7 モチーフ選出の様子

- ・振り返りを学習評価に生かすための生徒への問いかけの工夫

Googleフォームで本時の活動内容、授業で気付いたこと・感じたことの2点について振り返り、記入させる際に、次の授業につながることを記入しようと呼び、振り返りの視点を示す工夫をした。結果は、前の題材の同様の問いかけと比較しても、自身が感じたことや気付いたことを具体的に記述できるようになり、造形的な視点を意識させることで、目的に向かう意志的な側面が多くの子に見られた。教員も具体的な記述により学習のねらいが達成できたか評価して指導に生かしやすくなった。また、生徒にとっては、自らの学びを自覚できるような振り返りとなり、今後の学習活動の見通しが付きやすくなったといえる。

表1 生徒の振り返り内容の比較(活動を通じて気付いたこと感じたことという問いに対して)

活動を通じて気付いたこと感じたこと振り返り		Google Classroomの投稿より
	前題材：『マチエールを探る』 ～4種の絵具を使った絵画表現～	本時
生徒A	卵黄を使って絵の具みたいな感じを作れるということを初めて知りました。卵黄を使って他の作品を作りたいと思いました。	自分の煮干しは結構縦にうねりがあるので、高い波みたいな感じで削っていきたくいです。煮干しは直線的な動きではなく、うねうねしているので、その特徴がつかめるようによく観察していこうと思いました。
生徒B	材質によって色が変わっていくのだなと気付いた。ジュッソのあの柔らかい感触が心地よかった。あれをうまく使いこなせばショートケーキを作れそうだと思う。 油絵と卵テンペラも作って塗ったりしました。	彫塑や絵画を見て、生きているという感じを作品に宿すにはうねりという曲線の大きさというか、いかにうねりがあるかという部分が重要なのだと気付いた。自分が選んだ煮干しは大きくうねっているの、実際に作る際には大きくカーブをしているにぼしを作れると良いなと感じた。

生徒Aは、前時では活動の内容の記録と感想の記述のみにとどまっていたものが、本題材では、自身の視点を持って感じたことや気付いたこと、授業内で身に付けた知識を生かし表現の意図を持つようとした姿が読み取れる。現時点での技能に関する知識を活用して、目的に向かう意志的な側面がみえる記述内容に変容した。

生徒Bも、本題材では、気付いた項目が増え、活動から学んだことを具体的に記述し、自身で学びの内容を整理し重点化することもできており、自分の視点を持って制作意図を持ち自己の学びへの調整をする側面もみられる(表1)。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

研究授業では、生徒が学習内容を深く理解し、資質・能力が効果的に身に付くように以下の様な主体的・対話的な深い学びの視点を基にした過程の改善・工夫を協議した。

主体的な学びの視点では、生徒が見通しを持って題材に取り組めるように、その題材で、何を学び、何ができるようになるのか、その達成度を見るために、どのようなことをどのように評価するのか生徒自身が理解できるよう共有の仕方なども工夫する。また、振り返りなどの記述の記録やアイデアスケッチ、ワークシートを、実物に手描き等で行うのかGoogle Classroomなどを利用するのか活動の内容や場面、成果物の保管の方法を、「学びの蓄積」の見える化視点で精査し、生徒自身が振り返りやすくする改善も必要である。

対話的な学びの視点では、主に鑑賞の創造活動で、自分の考えを明確にして、広げられるような活動を生徒の実態に合わせて工夫する。そのためには、生徒が安心安全に自分の意見や他の生徒の意見を受け止める姿勢を作るため、対話をするための技術やマナーの指導も必要だが、活動が目的にならないように、言語活動を通して何を身に付けるのか明確にすることが重要である。

深い学びの視点では、主体的で対話的な活動を通して、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させながら生徒が自ら学習し、自分としての意味や価値を作り出せるように、造形的な見方・考え方を意識することができる生徒を育てていく必要がある。それらをバランスよく学習過程に取り入れ、授業後の生徒にはどの資質・能力がどれくらい身に付き、育てたい生徒像にどれくらい近づいたのか、指導の効果を確認していくためには、指導と同時に評価の場面や方法を計画していくことが重要であり、更に根拠を持った改善の実施を続けていく必要がある。

3 その他の実践事例

以下、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践例として掲載する。4観点の目標、評価規準と3観点の目標の変容も比較していただきたい。

(1) 白山高等学校(全日制) 実施(8月~10月)

ア 科目名:美術I (普通科1年次)

イ 題材名:生き物を表現する~木版画~ 「A表現」(1)、「B鑑賞」(1)ア(7)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

鑑賞を通して、自分の感想や意見を持つこと、造形的なよさや美しさを感じ取り、他者の表現の工夫などについて考え、その意見や気付きなどを自らの表現に生かそうとし、主題を生成していく力を養っていききたい。

エ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

アイデアスケッチや実際に制作に入った段階などで、互いの制作の状況を確認出来るよう、定期的に授業冒頭で全員の作品を鑑賞し、対話的な活動の時間を設定する。他者の作品を観ること、他者に作品を観てもらった活動の習慣付けをする。鑑賞後、自身の作品についても振り返り、今後の主題の確認や制作活動について目標を設定させるなどの見通しを持たせ、主体的に制作に取り組めるようにする。

オ 題材の概要…(鑑賞の場面:表現の工夫について考えるための鑑賞)

生き物の写真を基に単色刷りの木版画の制作を行う。グレースケール加工を施した写真を参考に明暗分割を行い、彫り目を工夫しながら陰影や濃淡の表現を追求していく。また、題材途中に鑑賞活動を行い、他者の制作の様子を確認すると共に、自らの作品について振り返り、制作の見通しを持って制作する。最後に完成した作品の相互鑑賞と振り返りを行う。

カ 授業の概要

鑑賞活動は、④、⑤の展開の導入部分に設ける。

- ① 導入 木版画についての説明、生徒の版画作品等を確認し、イメージを持つ。
- ② 発想・構想（1時間）用意されたグレースケール加工を施した生き物の写真資料から、作品の完成イメージを持ち参考にする写真を選ぶ。
- ③ 制作（2時間）写真に直接描き込む形で明暗分割を行い、版木にトレースを行う。
- ④ 鑑賞、制作（6時間）トレースした下絵を基に、生き物の特徴（毛並み、模様等）や全体の陰影・濃淡を彫刻刀で彫り出していく。**※導入で鑑賞を行う**
- ⑤ 鑑賞、制作:試し刷り（4時間）試し刷りし、再度彫る作業を繰り返す。**※導入で鑑賞を行う**
- ⑥ 制作:本刷り（2時間）本番の刷りをする。時間に余裕があれば、裏彩色も行う。
- ⑦ 振り返り、相互鑑賞をする。（2時間）

【鑑賞活動の内容】

- 1 全員の作品を鑑賞（作品は机の上に置き、自由に見て回れる形にする）
- 2 良いと感じた表現、参考にしたいと感じたことを各自メモする
- 3 2を通して、今日の目標を設定する

キ 実践の評価（成果と課題）

成果：

- ・題材途中に鑑賞の活動を設けることで、生徒一人ひとりが制作のヒントを見だし取り組むことが出来ていた。
- ・他者と作品を共有する時間を設けることで、鑑賞してもらうという意識も含め、より良い作品にしようという意欲の向上が見られた。

課題：

- ・木版画の特性上、制作進度に差が出来るため、生徒によっては鑑賞の活動が制作のアプローチとして後手に回る様子も見られた。題材に合わせ、より適切な鑑賞の方法や指導方法、タイミングを検討していく必要がある。
- ・一人ひとりしっかり鑑賞に取り組む様子が見られたため、数名取り上げて発表を促すなど、全体で意見共有する場を設けてもよかった。

ク 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

- ・今回は短時間での鑑賞の実践であったが、生徒の様子や成果なども踏まえ活動の有用性を実感した。また、題材に合わせた鑑賞の方法や指導方法の検討など課題も見られたため、次年度以降はICTの活用も検討しつつ授業改善を行い、指導計画を練っていく。



図8 トレース後ペンで
塗り分け明暗を区別



図9 途中鑑賞の様子



図10 完成した作品

(2) 横浜桜陽高等学校（全日制） 実施（9月～10月）

ア 科目名：美術Ⅰ（1年次）

イ 題材名：音鳴る貯金箱～陶土による塑造～「A表現」(1)、「B鑑賞」(1)イ(ア)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

自己の考えや意見を述べることや、他者との対話を通して自分の考えを深めようと鑑賞活動に主体的に取り組もうとする態度、他者との対話を通して多様な視点で、見方・考え方を深め、造形的な視点で考える力を身に付けさせたい。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

- ・ 作品を何となく作るのではなくテーマや思いを持ち、それらを追求して制作活動をしている。
- ・ 鑑賞作品について自分の意見や感想を言える、他者の意見も受け入れ共有し考えを広められる。
- ・ 色々な作品に興味を持ち、本物の作品を鑑賞したいという姿勢を持つ。

オ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

- ・ 制作手順が分かりやすい導入の工夫。
- ・ 生徒の制作意識を高めていくための鑑賞授業の充実。
- ・ 相互鑑賞では書画カメラなどで作品をモニターに映すなど、見せる工夫を行う。

カ 題材の概要…（鑑賞の場面：導入の鑑賞と相互鑑賞）

貯金箱を作陶する。作る楽しさを味わうだけではなく、主体的・対話的な鑑賞（3段階）を取り入れ美術作品について自分の考えを持ち、意見を述べ、周りの様々な意見に触れて自身の発想を広げ、美術文化について考える。導入では、表現の工夫を考えるための彫刻の鑑賞を行い、作品に対する作者の思いや工夫、彫刻の技法について学んでから制作を始める。完成後は、相互鑑賞として、生徒の作品を1点ずつ書画カメラでモニターに映し、形の説明、作品に込めた思いや考え、頑張った点を発表する。発表を終えてから自然乾燥させ、窯（800度）で焼成する。

キ 授業の概要

- ① 導入（2時間）彫刻の鑑賞と彫刻の技法についての学習をする。
- ② 発想・構想（1時間）生成した主題を基に、構想を練る。
- ③ 制作（5時間）構想を基に制作する。
- ④ 相互鑑賞（2時間）一人ずつ作品について発表する。
- ⑤ 焼成 じっくり乾燥（約1ヵ月）させてから約800度で素焼きして完成。

ク 実践の評価（成果と課題）

成果：

生徒が記入する振り返りの意見や感想から、授業導入の鑑賞の授業を充実させることが、より主体的・対話的で深い学びになるということが分かった。また、ろくろの上でくるくると回転する作品を見ながら生徒が自身の作品を解説し、鑑賞する側の生徒たちも映し出された作品に驚いたり歓声をあげたりして、それぞれ作品に興味を持ち両者が楽しむことができ、今までにない積極的な鑑賞会となった。発表方法の工夫も大切だと改めて感じる事ができた。

課題：

授業が主体的・対話的で深い学びになるように、また、生徒の制作意識を高めるために、鑑賞に力を入れる必要があると今回の授業で強く感じる事ができた。課題は、授業での鑑賞の取り入れ方はまだまだこれから研究の必要があるということである。

ケ 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

生徒が興味を持つテーマや課題、分かりやすい制作手順を示していく授業も大切ではあるが、鑑賞の授業を充実させることでより主体的・対話的で深い学びとなることを実感した。今後も生徒にとってより深い学びになるように鑑賞と制作両方充実した授業に取り組んでいく。



図11 焼成前の作品



図12 相互鑑賞のセッティング



図13 焼成後の作品

(3) 伊志田高等学校（全日制） 実施（11月～12月）

ア 科目名：美術Ⅱ（2年次）

イ 題材名：深いVTS（対話型鑑賞）の実践をしよう～鑑賞～

旧：「A表現」(2)イウ、「B鑑賞」アウ

新：「A表現」(2)ア、「B鑑賞」（1）ア(ア)イ(イ)、「共通事項」

ウ 生徒に身に付けさせたい力

自己の考えや意見を主張し、他者と対話を通して自分の考えを深めようとする鑑賞活動に主体的に取り組もうとする態度。そのために、美術史や美術作品に関する限定的・断片的な視点を、美術史や美術文化、作品などについて広く触れ、作品の表現の特徴やテーマ、工夫などの多様な視点から捉え、自己の意見や考えを持ち、他者との対話を通して考えを広げ、見方・考え方を深め、造形的な視点で考える力を身に付けさせたい。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

- ・ 作品や作者の個性に関心を持ち、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、分析し、自分の見方や感じ方を深めている。
- ・ 西洋美術における様々な作品が生まれた時代や民族、風土、宗教などによる表現の違いや共通性等に気づき、そこから考察し、西洋美術の文化について理解しようとしている。

オ 学習過程の工夫

- ・ VTS（Visual Thinking Strategy:対話型鑑賞）の実践によって、作品のよさを感じ取り、多様な視点から考え見方・感じ方を深めることができる資質・能力を着実に育むために、スモールステップで授業を配置した。
- ・ 最終的に、生徒が自然と様々な美術の分野に触れることができる機会となるよう学習過程を工夫し、作品等に興味や親しみを感じられるようなICTの活用も工夫した。
- ・ 主体的な学びとなるよう、作品や作者に関心を持てるように各時代の西洋の美術作品を生徒一人につき1作品担当をさせて、調べ学習を行った。その作品についてのプレゼンテーションや、クイズの作問を行い、目的意識を持って学習に取り組めるようにした。聞き手が作品鑑賞や他の生徒の意見や考えを能動的に受け止められるように、プレゼンテーション発表者は、聞き手の印象に残るようスライドや発表方法の工夫を指導することや、聞き手が相互鑑賞後、内容に関係するクイズに回答する場面を設定する工夫をした。
- ・ 作品から様々なことを感じたり、考えたりする力を高めるために、他教科の学習活動を例とした体験を行い、美術史の知識の有無に関わらず作品から読み取ることの大切さを学ぶようにした。表現の特徴やテーマ・工夫などを、多様な視点から捉え、自己の意見や考えを持ち、他者との対話を通して視野を広げ、更に学びを深めるために、対話型鑑賞を行う。

カ 題材の概要

対話的な鑑賞活動を行うために、生徒が美術作品に対して見方や感じ方を持つ機会として、西洋美術史のアルカイック期～シュールレアリスムまでを対象に25作品の鑑賞を行う。一人1作品について、調べた内容を中心に、4分間程度のプレゼンテーションを行う。相互鑑賞を通して、クラスの生徒の人数分、計25作品を鑑賞する。社会科での写真資料を読み取る学習活動では、交差点の写真をもとまった時間観察し、事故防止のために工夫されていることについて考え、発表したり、国語科の鑑賞活動では童謡『七つの子』の歌詞を取り上げ、見えない部分を想像させる発問や、二者択一の発問をして自己の考えを持たせ、意見交換をする学習活動を行い、それらの取組を応用し、VTS(対話型鑑賞)で主体的に対話的な深い鑑賞活動を実践する。教員がファシリテーターとなり他の生徒と感想や意見を共有させる。生徒が、作品について、どうしてそのように感じたのか、そこからどのように考えたのか自己との対話を通して、考えを整理し広げ深めることができる。

キ 授業の概要（10時間）

- ① 導入（4時間） 担当作品の解説のプレゼンテーション資料と、クイズを作成する。
- ② 鑑賞（3時間） スライドや発表方法を工夫し、プレゼンテーションによる相互鑑賞を行う。
- ③ 展開1（1時間）クイズアプリKahoot!を用い、全員が回答者としてクイズを体験する
- ④ 展開2（1時間）写真資料の読み取りと詩の鑑賞の体験をする。
- ⑤ 鑑賞（1時間） VTSを実践する。対象の作品を10～15分間程度鑑賞し、ファシリテーターの教員とともに他の生徒と感想や意見を共有する。

ク 実践の評価（成果と課題）

成果：

導入の鑑賞では、他の生徒に向けて印象に残るように、調べた内容を精選する活動を通して、作品研究や鑑賞の創造活動に自分事として取り組むことができ、見方や感じ方を主体的に深めることができた。作品や作者の意図や工夫を調べた内容と自分なりに結び付けたりし、深めた見方や考え方を他の生徒に生き生きと発表したりする姿がみられた。さらにこれまでの「デザイン」の領域での既習事項を活用し、造形的な視点を持ったスライド資料の作成をすることができた。

課題：

現時点では、対話的な鑑賞を行うためのスモールステップを踏んでいる段階なので、各活動に対して指導に生かす評価を基に対話的な鑑賞の実践にむけ改善しながら準備をしている。実践後に、自己の考えや意見を主張し、他者と対話をして考えを深めようとする等の主体的に学ぶ姿勢が身に付いたか、最終的に評価していきたい。

ケ 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

また、次年度に向けた指導に生かす評価は、生徒との対話の場面も活用し、評価場面の設定についても検討していく。

作品分担	出席順に時代順で割り当て
17.新古典主義	ダヴィッド 「サン＝ベルナルド峠を越えるゴナバルト」
18.ロマン主義	ジェリコー「メデューズ号の筏」
19.レアリズム	クールベ「画家のアトリエ」
20.バルビゾン派	ジャン＝フランソワ・ミレー「晩鐘」
21.印象派	クロード・モネ「印象・日の出」
22.キュビズム	ピカソ「アビニョンの娘たち」
23.ダダイズム	マルセル・デュシャン「泉」
24.シュルレアリスム	マグリット「イメージの裏切り」
25.抽象表現主義	カンディンスキー「コンポジションVIII」

図14 時代ごとの作品一覧



図15 生徒の説明スライド

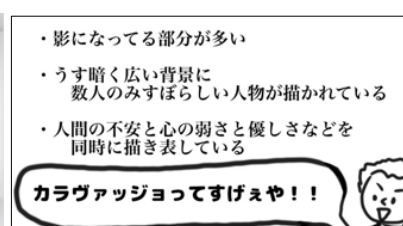


図16 生徒の説明スライド

(4) 鶴嶺高等学校（全日制） 実施（9月～10月）

ア 科目名：美術Ⅰ（1年次）

イ 題材名：マイデザインエコバッグ～ステンシルプリント～

「A表現」(2)、B「鑑賞」(1)ア(イ)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

鑑賞を通して色の特性や孔版画表現における材料の特質や技法について知り、造形の要素などに着目し多様な視点を獲得させることで、より説得力のある表現活動へつなげ、基礎・基本的な技能の向上を目指す。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

好き嫌いなどの感情や印象だけに左右されずに、作品の情報に基づいて客観的に鑑賞することができる。またそれを踏まえて自分なりに作品の解釈ができる。

オ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

- ・題材の始まりに、技法等が関連する美術作品（バンクシーなど）を鑑賞させる。鑑賞では作品を観せるだけでなく、本題材で取り扱うステンシル（孔版画）の表現の特徴や技法、インク等の材料の特質などについて同時に伝えることで、今後の表現活動を俯瞰し見通しを立てながらアイデアを発展させていくよう働きかける。
- ・作品完成後、自分の作品について発表を行い、作品を相互鑑賞する時間を設定する。自分の作品について他者に分かりやすく情報を伝え、発表を基に他者の作品を自分なりに解釈していく活動を通して、根拠を持って美術の表現・鑑賞活動を行う力を養う。

カ 題材の概要…（鑑賞の場面：題材途中の鑑賞）

「自分」を表現するためのシンボルマークをデザインする。そのシンボルマークを、ステンシルの技法を活用して布バッグにプリントし、オリジナルのエコバックを作成する。完成した作品について、グループで鑑賞する。

キ 授業の概要

- ① 導入(1時間) 題材に関連する作品の鑑賞、技法についての学習する。
- ② 発想・構想(3時間) シンボルマークをデザインし、色鉛筆で着色する。
- ③ 制作(1時間) 印刷の構成を考え、ステンシル用シートにマークをトレースする。
- ④ 制作(3時間) シートをデザインナイフで切り抜き版を制作する。
- ⑤ 制作(2時間) 色の重なり注意到しながら布バッグに印刷をする。
- ⑥ 鑑賞(1時間) 班内で一人ずつ発表を行い鑑賞する。鑑賞者は感想用紙を発表者に手渡す。

ク 実践の評価(成果と課題)

成果:

今までの題材でも班内での発表・鑑賞を行っていたが、感想用紙を発表者に手渡すのは初めての試みであった。各クラスの親交が深まり、生徒が不安なく活動を行える時期と判断してのことである。結果として、そうした空気感と、相手に感想を渡す意識を持ったことで、発表後、感想用紙を手渡すだけに留まらず、感想を直接伝えたり、発表者に作品について質問をしたりするなど、こちらが意図した以上に鑑賞活動が深まった様子であった。

課題:

40人クラスのため時間の関係上、一人ずつの発表が難しく班内での鑑賞活動に陥りがちな点があげられる。今後はGoogle Classroomなどを活用しながらクラス内全員分の作品を鑑賞したり、他クラスの生徒作品の鑑賞をしたりするなど、より多くの作品を鑑賞し、多様な価値に触れる機会を与えたい。

ケ 今後に向けて(次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について)

題材のまとめとしての鑑賞では、生徒に共通した実体験があるからか、他者の作品への関心がより高まる様子が見受けられた。こうしたタイミングと環境を生かしながら、より効果的な鑑賞活動を模索し授業改善していきたい。



図17 生徒作品表面

図18 図17の裏面

図19 生徒作品表面

図20 図19の裏面

(5) 寒川高等学校(全日制) 実施(10月~11月)

ア 科目名: 美術Ⅱ(2学年)

イ 題材名: パブリックアート~抽象彫刻~「A表現」(1)(3)、「B鑑賞」(1)イ、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

課題の目的や見通しを明確化させる必要がある。ICTの利活用については、2学年は共用の1人1台端末があり、これを活用した授業を進めている。課題の目的や見通しを明確化させる造形的な見方・考え方を働かせ、表現や鑑賞活動に取り組み、多様な価値観についての理解を深めることを身に付けさせたいと考えている。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

意図に応じて制作に臨み、自身や他者の作品の良さを捉え、見方・考え方にに基づき根拠を持って相手に伝えたり、多様な価値観についての理解を深めたりする姿。

オ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

- ・抽象彫刻(木材のカービング)の制作を通じて「抽象」という言葉の本来意味している視点を持たせるとともに、素材や工具などの特性を生かし、意図に応じて発想や構想を具現化することを促す。
- ・単なる彫刻作品の制作とせず「パブリックアート」の想定とし、完成作品の画像加工を通じて、作品のスケールや設置する場所等も設定し、他者や環境も踏まえた表現を考えさせる。

カ 題材の概要…(鑑賞の場面: 導入の鑑賞と相互鑑賞)

「抽象彫刻」として制作した作品と、任意で選んだ背景画像を合成する。どのようなコンセプト(テーマや目的)で、どのようなところに作品を設置するのかを再度確認しながら、合成した画像を通じて発表を行う。他者の意見や感想をフィードバックし、振り返りを行う。

キ 授業の概要

- ① 導入（1時間）「抽象」という言葉の意味や使われ方、対義語等について調べる。
- ② 導入（1時間）調べたことを手掛かりに、彫刻作品について、「抽象-具象」の尺度、度合について、理由も含めて自分なりに分類する。
- ③ 展開（1時間）コンセプト（テーマ・目的）や作品の設置場所も含め、アイデアスケッチとして制作の構想を練る。
- ④ 制作（8時間）彫刻作品を制作する。
- ⑤ 制作（3時間）Chromebookで彫刻作品の写真と背景画像を合成する。
（ソフトはibisPaintを使用）
- ⑥ 鑑賞（2時間）発表・フィードバック・振り返りを行う。

ク 実践の評価（成果と課題）

成果：

「抽象」ということばを手掛かりに、テーマと形体の関係や、素材の性質を踏まえた形の検討を行うことができた。また、パブリックアートと想定し、作品のスケール感や設置場所も含めて構想することで、鑑賞者を想定し、作品と環境の関わりについても考え、制作・鑑賞に臨むことができた。作品写真を背景画像と合成することで、作者の構想を視覚化することができ、鑑賞時の発表（説明）や振り返りにおいてイメージの共有がスムーズになった。併せて、評価においてもスムーズに目的達成の度合いを見取ることができた。

課題：

「抽象彫刻」や「パブリックアート」を身近なものとして認識していない生徒も見られた。発想や構想段階で判断に迷う生徒も見られた。使い慣れないソフトを操作することに苦勞していた。操作上の不具合もあった。Google Classroomを介して完成画像を提出させたが、データの保存やアップロードなども含め、詳細な説明を要した。

ケ 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

画像加工（背景をつけること）は、作品単体では伝わりにくい作者のテーマやコンセプトを鑑賞者に視覚的に伝えることに対して効果的であった。鑑賞とそのフィードバックは、主観と客観の見方・考え方の違いや歩み寄りの表出が見られるので、今後もそうした場面を継続して設定していきたい。



図21 抽象彫刻



図22 画像加工の例



図23 画像加工作業